

(別紙)

2022年1月27日

各位

妻沼滑空場における新型コロナ・ウィルス感染症への対応について

妻沼訓練所長

中村 暢宏

オミクロン株感染者数の増加に伴い1月26日より事前に抗原検査又はPCR検査で陰性を確認して滑空場への来所をお願いします。

妻沼滑空場の運用を宿泊可能数は3畳/1名のステップ02です。3密の回避、担当者の設定、消毒・換気の徹底をして合宿生活を新しい生活様式に対応した運用の確立にご協力ください。

ソーシャルディスタンス(2m)が保てない場合は、マスクの着用をお願いします。また、飛行訓練を実施する妻沼滑空場においては体温計測に於いて37℃未満である事を基準します(平熱が高い人は事前にご相談下さい)。

感染力の強いオミクロン株は、微熱や軽い咳、どの痛みなど今まででは見逃しがちな症状でも早めの対応が必要です。合宿参加者の健康管理をこれまで以上に徹底して下さい。

抗原検査及びPCR検査は、コロナ対応ワクチン接種者を含めて各校で滑空場来所48時間前に実施して合宿に参加して下さい。当面妻沼滑空場でも対応はしますので、前日に必要数を調整願います。

1. 活動にあたっての確認事項

- (1) 大学から課外活動の了承を得ていること
- (2) 3密の回避を考慮した新生活様式の確立を考慮して実施すること
- (3) 合宿は、大学が宿泊か日帰りを可能とする活動体制であること
- (4) 各部屋の使用人数を定員の1/2以下で運用する。(約3畳/1名)
- (5) 合宿中の学生が体調を崩した場合に、親族が迎えに来る、OBの家で介抱するなど、各校クラブとして救援体制を検討しておくこと。特に下宿の学生について十分に検討しておくこと。
- (6) 当面は、入り日の前に各校間の施設の使用調整が必要です。妻沼に到着後、主将、担当者ミーティングが実施できるように事前調整をお願いします。
- (7) 妻沼訓練所でオンライン授業を希望する学生は事前に中村までご連絡ください。
(8)妻沼滑空場に来場の際は、接触確認アプリ(COCoA)のインストールをお願いします。

2. 妻沼訓練所の宿泊及び待機時のキャパシティー

(男39名、女子20名、指導員8名、食堂24名、研修室10名計101名)

- (1) 201(25畳)8名、202(21畳)、203(21畳)7名、205(20畳)6名の宿泊とする。
- (2) 新格2A(13.5畳)4名、2B(22畳)は7名
- (3) 女子103(15畳)(5名)、105(12畳)(4名)、106(12畳)(4名)は、3階研修室は7名
- (4) 指導者用の各部屋を定員2名での運用とする
- (5) 食堂は使用前に塩素消毒液で消毒を実施して各テーブル3名の使用とする。12脚を同時使用して、最大定員を36名とする(入室者数)。ただし、日中の待機時の運用は12名とする。
- (6) 男子風呂は、浴室3名、シャワー4名、脱衣所2名とする。
- (7) 女子風呂は、シャワー4名、脱衣時2名とする
- (8) 新格3階の研修室の収容人員を最大20名とする。ただし、日中の待機時の運用は10名とする。
- (9) 格納庫での整備する員数の制限を解除します。

3. 施設の使用要領

- (1) 各部屋
 - ・定員を厳守すること
 - ・各部屋で3畳/1名の間隔で布団を敷く

- ・ 頭と足が交互になる様に布団を敷く
- ・ 枕用のバスタオルを持参すること
- ・ 部屋は対角線上に窓を開け換気に注意すること

(2) 食堂 (36 名)

- ・ 定員 36 名を厳守すること(使用時間を調整して定員超過にならないように)
- ・ 換気のために対角線に窓を開ける
- ・ 使用後塩素消毒液で消毒を実施して次に引き継ぐ
- ・ 準備 5 分、食事 15 分、片付け 5 分 (計 25 分) で 1 グループが使用する
- ・ 食堂の使用中は、他校の入室を禁止する。事前に時間調整を実施する
- ・ 日中の待機時の運用は 24 名とする。

(3) 風呂

- ・ 換気扇を回す
- ・ 脱衣場は、女子 1 名、男子 2 名で運用する
- ・ 1 名退出したら 1 名入室する

(4) 3F 研修室 (20 名)

- ・ 対角線上に窓を開け、換気に注意する
- ・ 定員を厳守する
- ・ 日中の待機時の運用は 10 名とする。

(5) 玄関での員数を 5 名 までとします。撤収、宿舎に戻る時間帯を調整して密にならないようにする。

(6) 格納庫で整備作業を実施する場合は、事前に他団体と日程、時間、員数、機体数等を調整下さい

4. 合宿に参加する学生・指導教員の日課及び健康管理について。

- (1) 各校に健康管理、行動管理を担当する担当者を 1 名以上選定し事前に届け出る。
- (2) 担当者は、参加者が参加日の 2 週間前に発熱等の症状のないことを確認する。
- (3) 担当者は、参加者が妻沼に到着したら玄関で体温測定を実施する。(37℃未満である事)
- (4) 担当者は、参加者から毎朝検温結果の報告を受け、健康管理をする。
- (5) 担当者は、事前に担当者会議の実施時間を調整しておく。妻沼到着後出来るだけ早く実施する。
- (6) 飛行終了後、宿舎に入る前に担当者に体温測定の結果を報告する。(37℃未満である事)
- (7) 体温測定後、アルコール消毒液で手の除菌・消毒を実施する。
- (8) 洗面所に行き石鹸で手・指先を洗い、うがいをする。(マイタオルを持参する)
- (9) 日帰り参加者及び当日朝参加者の前日の睡眠時間を確認する。

(10) コロナ対応ワクチン接種後の参加者も、各校の管理で事前(48 時間前)に PCR 又は抗原検査を実施して陰性の確認をして下さい。当面の期間は滑空場でも対応しますので、前日に事前連絡して下さい。

5. 宿舎の管理について

- (1) 次亜塩素酸ナトリウムで消毒する場所は、玄関(入口)、食堂(入口・テーブル)、シンク(水道)、浴室(入口・扉)、使用している部屋 (入口)
- (2) 朝、起床後全員で清掃・消毒を実施する。(6:00~6:30)
- (3) 夕方。飛行終了後宿舎を使用する前に消毒を実施する (17:00~17:30)
- (4) 食堂のテーブルは使用毎に塩素消毒を実施しする。使用後も塩素消毒を実施する。
- (5) 参加人数を 3 団体合宿の時、計 101 名、2 団体の時、計 90 名、1 団体の時、計 80 名
- (6) 宿舎の運用は最大 101 名の運用でお願いします。(操縦教員を含む) ただし、食堂の使用定員を考慮して使用すること。指導教員の数も含まれています。

6. 搭乗者はマスクを着用し、搭乗前にアルコール消毒液で両手を消毒後機体に搭乗する。搭乗後もアルコール消毒液で消毒する。(アルコール消毒液は各校で準備して下さい。)

以上

Ver.2022 年 2 月 17 日

第 62 回全日本学生グライダー競技大会 感染予防対策

新型コロナウイルス感染予防のため下記の点を順守願います。

【出場選手・チームクルー・運営スタッフ】

1. 来所前

- (1) 来所の 2 週間前より毎日検温をおこない記録し、体調の管理に努めてください。
- (2) ワクチン接種の有無にかかわらず来所前 48 時間以内の抗原検査または 72 時間以内の PCR 検査を受け陰性であることを確認してください。
- (3) 発熱などの体調不良、未検査、検査結果が陰性でない場合は来所できません。
- (4) 検温記録、ワクチン接種状況、検査結果は所定の記録用紙に記入し持参してください。

2. 集合日（来所時）

- (1) チームごとに「健康管理担当者」（チームリーダーに限らず）を決めてください。
- (2) 健康管理担当者は選手・チームクルー等の記録用紙を取りまとめて総務委員に報告・チェックを受けてください。

3. 大会期間中

- (1) 大会期間中も検温・体調管理をおこない、健康管理担当者は自校関係者の健康状態を把握し、異常のある時は速やかに報告してください。
- (2) 訓練所の利用については別紙「妻沼滑空場における新型コロナウイルス感染症への対応について」に従ってください。

4. 終了後

- (1) 終了後 1 週間以内に感染者が判明した場合は速やかに学連事務局まで報告してください（接触者リスク管理のため）。

【大会期間中に外来のコーチ、応援 OB など】

- (1) ワクチン接種完了の方も、来場前の体調管理・検査をおこなってください。発熱等の体調不良、検査非陰性、感染者の濃厚接触者である方は来場を控えてください。
- (2) 来場時は屋外に於いてもマスク着用の上、学生・関係者とは 3 密となるような接触を避けてください。

以上